

平成25年度 サンポートホール高松 文化ボランティア募集

(公財)高松市文化芸術財団では、平成25年度文化ボランティアを募集します。
 たくさんの方からのご応募をお待ちしております。

活動内容

公演サポート

財団主催の公演日にホールでのお手伝いをお願いします
 (ホール公演でのチケットもぎり、お客様の対応等)

広報サポート

チラシ・情報誌の発送、公演PRのお手伝いをお願いします
 (月に1回程度の発送作業等)

活動期間

2013年4月1日～2014年3月31日

募集人員

50名程度

活動費

無報酬

◆文化ボランティア説明会

まず、説明会へご参加ください(申込締切:3月8日(金))

日時:(1)2013年3月17日(日)10:30～12:00

(2)2013年3月18日(月)10:30～12:00

場所:サンポートホール高松 5階53会議室

◆応募資格

- ①芸術文化に関心があり、ボランティア活動に参加できる方。
- ②年齢18歳以上で、香川県内に在住の方。
- ③ボランティア説明会のどちらかに出席できる方。

※説明会に参加される方は、あらかじめお申し込みください。
 お申し込みは、来館・電話などで受け付けています。
 ※文化ボランティアへのご登録は説明会後に行います。

お申し込み・お問い合わせ (公財)高松市文化芸術財団 事業グループ TEL087-825-5010

ホール・ガイダンス

施設空き情報の確認

サンポートホール高松『施設予約管理システム』で、
 2年先までの空き情報がご覧いただけます

サンポート 空き情報 検索

<http://www.reserve-sunport-hall.jp/bunyusr/usr>



●使用日の1年前の月の初日から2週間前まで、
 会議室、和室、リハーサル室、練習室の仮予約ができます。

受付窓口からのお知らせ

練習室は、1時間200円からとお安くご利用できます。
 なお、平日は比較的空きがございます。

受付時間 9:00～17:00(利用者登録・施設使用申請・お支払)

詳しくは財団ホームページ、またはお電話で。

<http://www.sunport-hall.jp/> ☎ 087-825-5000

さんぽーとCLUB

会員だけのうれしい特典やお得なサービスがいっぱい!1年中いつでも入会できます。



会員期間 1年間 会費 年会費 1,000円

特典 ★サンポートホール高松のプレイガイド窓口でのご購入に限りです。

●チケットに関する特典

- ・財団が指定するチケットを、一般発売に先立ち優先的に予約または購入できます。
- ・財団が指定するチケットを、原則上限20%割引をした会員価格で購入できます。
- ※割引率は公演によって異なります。 ※会員価格で購入できるのは、会員お一人様5枚までです。

●入会時の特典

- ・入会と同時に、財団が指定するチケットを購入する場合、一般価格および学生価格から1,000円引きの価格で購入できます。
- ※ただし、1,000円引きで購入できるチケットは1枚までとし、初回入会時のみとします。
- ※1,000円引きでチケットを購入と同時に、会員お一人様4枚までを会員価格で購入できます。
- ※1,000円引きの特典が適用されない場合もあります。

●その他の特典

- ・財団が発行する情報誌や、催し物案内等を定期的にお届けします。
- ・財団の主催事業で出演されたアーティストの記念品等を抽選でプレゼントします。

入会の手続き

●ご来館によるお申し込み

入会申込書に必要事項をご記入の上、年会費を添えて、サンポートホール高松のプレイガイド窓口にお申し込みください。

●現金書留によるお申し込み

入会申込書に必要事項をご記入の上、年会費を添えて、サンポートホール高松友の会事務局宛てに現金書留で郵送してください。

会員期間について

会員期間は、入会日から1年を経過した日の属する前月の末日までです。以後、会員期間を更新するときは、その翌月の初日から1年間とします。

2013年4月1日以降の入会・更新から次のようになります。

チケット購入 財団が指定する公演について一般発売に先行して、チケットの予約・購入ができます。また、会員価格で購入できます。

入会・更新 会員期間中に利用できる、チケット割引券(500円)1枚を差し上げます。

年会費 1,000円
 会員期間 1年

*現在の初回入会時特典は2013年3月末で終了します。詳しくは財団事務局までお問い合わせください。

vol. 37

サンポートホール通信 [季刊]シャ・ラ・ラ

2013年冬号

<http://www.sunport-hall.jp/>

- ISAMU
- サンポートホール高松デビューリサイタル 黒瀬正浩 香川恵理 上田花奈 松岡璃子
- 高校演劇フェスティバル 青森県立青森中央高等学校 『もしイタ～もし高校野球の女子マネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら』
- 劇団東京乾電池公演「寿歌」
- 平成25年度 文化ボランティア募集

ISAMU

日 時: 2013年1月24日(木)・25日(金)
19:00開演(18:30開場)
会 場: 第1小ホール
チケット: 一般 3,500円 友の会 3,200円 **全席自由**
発売日: 友の会 11月23日(金・祝) 一般 11月28日(水)

【脚本】倉持 裕
【演出】宮本 亜門
【出演】瀬川 亮、大森 博史、ヨシダ 朝、森 ほさち、神農 直隆、岡田 あがさ、植田 真介
【企画制作】株式会社バルコ

イサム・ノグチ

2011年の震災で、僕は地球を感じました。地球の怖さや偉大さ、それに美しさ。また対する人間の、小ささ、畏敬の念や愛おしさも。そして僕の心に浮かび上がったのがイサムの作品でした。人種や国を越え、壮大な自然や、宇宙まで全てに愛情を注ぎ続け、多様な世界を作り出した才人。米、日の両国で悩みながらも正直にクリエイトし続け、どれもが新たな想像をかき立てる、その限らない人間の可能性。そんな彼の作品や、視点を少しでも多くの方に感じてもらいたい、僕は2011年の11月に「ISAMU」として公開リーディングを<KAAT>神奈川芸術劇場で行いました。そして、ついに2013年の1月、僕の故郷でもあり、何よりイサムを育て、イサムが眠る地、香川の高松で公演に近い形になったプレ公演をさせていただくことになったのです。

僕がイサム・ノグチの凄さを知ったのは、ある一枚の写真からでした。演出家を志していた20歳代、ダンスの本質を知ろうとニューヨークで、モダンダンスの母と呼ばれていたマーサ・グレムカンパニーのダンスレッスンを受けていた時です。僕が受けていたミドルクラスの周りにはほとんどがアメリカ人で一流のダンサー。自分だけが小さく固い体を必死に折り曲げる劣等生。そんな僕を時々現れるマーサ・グレム女史は、愛情を込めつつ、手厳しく背中や足を押ししてくれました。僕はその痛みに耐えながら、自分がみんなと同じにできない口惜しさで一杯になっていました。そして一息つける5分間休憩に入り、僕は一人、廊下に出てタオルで汗を拭きため息をついていました。その時、ふっと見上げた前にあったのが、イサム・ノグチがセットを作ったマーサ女史の舞台写真だったのです。タイトルは「Frontier,1935.」写真の右下には、「SET DESIGN BY ISAMU NOGUCHI」と書かれていました。僕は、劣等感に満ちた日本人として孤独を感じていたので、その名が飛び込んできた時は嬉しかった。またその舞台写真に写っていたセットは、35年とあるのに、今まで見たことのない、闇を切り裂くような線で区切られたシャープな立体感覚があり、イサムと言う人の才能に震え上がったのです。

しかし、本当の衝撃は、演出家になってから、香川の牟礼にあるイサム・ノグチ庭園美術館を訪れたことです。そこで

僕は徹底的に打ちのめされました。そこにはイサムの魂が息づいていたからです。まるで、石の裏からイサムさんが「ようこそ」と笑顔で顔を出してくれるかのよう。一つ一つの石が全て違う顔を持っており、どれも独自のクリエイションが芽吹いていて、自然の木々山々と同様一つとして同じ形がない、見続けても飽きることなく深遠な魅力に満ちていました。

イサム・ノグチを知れば知るほど、彼が先見の明があったと思えてなりません。バックミンスター・フラー^{※1}の哲学と共に、今を生きる我々にとっても、これから人類が進むべきヒントが隠されているように思えてならないのです。混迷の今、イサムをもっと知ってください。そしてもっと彼らから得られるモノを忘れずに、歩んでほしいのです。香川にある素晴らしい作品群の近くにある劇場で、こうしてプレ公演が実現することを心から感謝しておりますし、是非、これを機会に少しでも多くの方にイサムの凄さを知っていただきたいと思っています。2013年の新たな幕開けの1月、是非、劇場に足をお運びください。お待ちしております。

宮本 亜門



[プレ公演 in 高松 キャスト]



瀬川 亮



大森 博史



ヨシダ 朝



森 ほさち



神農 直隆



岡田 あがさ



植田 真介

Isamu Noguchi Biography

- 1904年 アメリカ・ロサンゼルスで私生児として誕生。父は詩人で慶應義塾大学教授の野口米次郎、母はアメリカ人作家レオニー・ギルモア。
- 1907年 母/レオニーと来日、東京の父/米次郎宅に居候。
- 1910年 野口勇として、森村学園付属幼稚園に通学。
- 1911年 母と2人、神奈川茅ヶ崎に転居。地元の小学校へ転入。以後、父とは疎遠。私生児・混血であることからいじめられ、登校拒否となり、木彫りに熱中する。
- 1913年 イサム・ギルモアとして、横浜市のセント・ジョセフ・インターナショナル・カレッジへ転入。
- 1918年 母の意向で単身渡米。インディアナ州のラ・ポート高校で、寮生活を送る。
- 1922年 トップの成績でラ・ポート高校を卒業。スタンフォードの彫刻家ガツォン・ボーグラムの助手になるが、師から彫刻家としての適性を認められず、挫折感を味わう。
- 1923年 ニューヨーク・コロンビア大学医学部に入学。母と同居。医学部に在籍しつつ、レオナルド・ダ・ヴィンチ美術学校の夜間の彫刻クラスに通学。徐々に才能を発揮。美術学校の校長に彫刻に専念することを勧められ、医学の勉強をやめてアトリエを構える。父から許されていなかった野口の性を名乗るようになる。イサム・ノグチの誕生。
- 1925年 ニューヨークで活躍していた日本人舞踏家 伊藤道郎のダンス・パフォーマンスで、初めて演劇関連のデザインを手掛ける。
- 1927年 グッゲンハイム奨学金を獲得し、パリに留学。半年間、オーギュスト・ロダンの弟子である彫刻家コンスタンティン・ブランクーシに師事。夜間の美術学校に通う。
- 1928年 奨学金の延長が認められずニューヨークに戻る。アトリエを構え、翌年、個展を開く。
- 1930年代 アジア・メキシコ・ヨーロッパを旅して過ごす。
- 1931年 野口姓を名乗っての来日を許さなかった父と13年ぶりに再会する。
- 1935年 在米日本人芸術家の国吉康雄、石垣栄太郎、野田英夫らと共にニューヨークの「邦人美術展」に出品。
- 1941年 第二次世界大戦勃発。自らアリゾナ州の日系人強制収容所に志願拘留。しかし、アメリカ人との混血ということでアメリカ側のスパイとの噂がたち、日本人社会から冷遇されたため、自ら出所を希望するも逆に日本人であるとして出所できず。後に、芸術家仲間フランク・ロイド・ライトらの嘆願書により出所。
- 1942年 マンハッタンのグリニッジ・ヴィレッジにアトリエを設ける。
- 1947年 ジョージ・ネルソンの依頼で「ノグチ・テーブル」をデザイン。インテリアデザインの作品に手を染める。
- 1950年 来日。三越で個展を開催。丹下健三、谷口吉郎、アントニン・レーモンドらと知己になる。
- 1951年 リーダースダイジェスト東京支社の庭園の仕事の依頼を受け来日。岐阜提灯をモチーフにした「あかり(Akari)」シリーズのデザインを開始。同年、山口淑子(李香蘭)と結婚(1955年に離婚)。鎌倉の北大路魯山人に陶芸を学び、素焼きの作品制作に没頭。同年、設計したデザインが広島平和記念公園のモニュメント(慰霊碑)に選ばれるが、原爆を落としたアメリカ人であるとの理由で選に漏れる。(しかし彼のデザインの一部は、平和公園にある丹下健三設計の「原爆慰霊碑」に生かされている。)また、戦災復興都市計画に伴い計画され、平和公園の東西両端に位置する平和大橋・西平和大橋のデザインを手掛ける。後年、アメリカ大統領の慰霊碑を設計した際は、日系人であるとの理由で却下される。
- 1961年 アメリカに戻り、ロング・アイランド・シティにアトリエを構える。
- 1964年 IBM本部の庭園を設計。
- 1968年 アメリカ・ホイットニー美術館において回顧展を開催。
- 1969年 シアトル美術館に彫刻作品「黒い太陽」を設置。東京国立近代美術館のために「門」を設置。ユネスコ庭園への作品素材に香川県庵治町・牟礼町(現・高松市)で産出される花崗岩庵治石を使ったことをきっかけに牟礼町にアトリエを構え、ここを日本での制作本拠とし、ニューヨークと往来しながら作品制作を行う。
- 1970年 日本万国博覧会の依頼で噴水作品を設計。
- 1974年 芸術協会主催によるパーム・ビーチ彫刻競技会にて作品「インテラ」が2等受賞。同地に設置。同年、東京の最高裁判所に噴水を設計し設置。
- 1984年 ニューヨークのロング・アイランド・シティのイサム・ノグチガーデンミュージアムが一般公開。同年、コロンビア大学より名誉博士号を授与。ニューヨーク州知事賞を受賞。
- 1985年 ヴェネツィア・ビエンナーレ(第42回)のアメリカ代表に選出される。
- 1987年 ロナルド・レーガン大統領からアメリカ国民芸術勲章を受勲。
- 1988年 勲三等瑞宝章を受勲。札幌市のモエレ沼公園の計画に取り組みも、その完成(2004年)を見ることなく同年12月30日、心不全により永眠。享年84歳。
- 1989年 遺志を継ぎ、和泉正敏が制作した遺作「タイム・アンド・スペース」が高松空港に設置される。
- 1999年 香川県高松市牟礼町にイサム・ノグチ庭園美術館開館。

※1 リチャード・バックミンスター・フラー (Richard Buckminster Fuller, 1895-1983) …アメリカ・マサチューセッツ州出身の思想家、デザイナー、構造家、建築家、発明家、詩人。

サンポートホール高松 デビューリサイタル

黒瀬正浩 香川恵理

日 時: 2013年3月2日(土) 14:00開演(13:30開場)
 会 場: 第1小ホール
 チケット: 一般1,000円 学生(大学生以下)500円 **全席自由**
 発売日: 1月11日(金)



第1部
黒瀬 正浩 (ピアノ)
 Kurose Masahiro
 ヤマハジュニア専門上級科修了後、香川県立坂出高等学校音楽科(ピアノ専攻)を経て、上野学園大学音楽学部音楽学科演奏家コースピアノ専門卒業。織田美保、クラウディオ・ソアレス、故細田淑子、柳井修、田部京子、柳澤美枝子、手塚真人、大山まゆみの各氏に師事。室内楽を今井信子、下野竜也、演奏法を横山幸雄、田部京子、チェンバロを戸崎廣乃の各氏に師事。ヤマハヤングピアニストコンサート推薦演奏会銀賞、ピティナピアノコンペティションD級地区本選優良賞、同F級地区本選奨励賞を受賞。2012年6月丸亀フレッシュコンサートに出演。



第2部
香川 恵理 (フルート)
 Kagawa Eri
 香川県立坂出高等学校音楽科を卒業し、現在、武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ科3年在学。中学の吹奏楽部でフルートを始め、14歳から本格的に習い始める。第25回香川ジュニア音楽コンクール木管部門高1の部金賞。第14回びわ湖国際フルートコンクール入選。第63回全日本学生音楽コンクール大阪大会フルート部門高校生の部1位。第33回草津夏期国際音楽アカデミーにて、W.シュツルのマスタークラスを受講。フルートを中川朋子、野口博司、米田有夏、佐柄晴代、柳原佑介の各氏に師事。室内楽を高久進、甲斐道雄の各氏に師事。

Program

1. アンダンテピアノと華麗なる大ボロネーズ 変ホ長調作品22 (ショパン)
2. エチュードOp.8 No.12 嬰ニ短調 エチュードOp.8 No.8 変イ長調 (スクリャーピン)
3. 版画 塔、グラナダの夕べ、雨の庭 (ドビュッシー)
4. 献呈 (シューマン/リスト)

Program

1. ファンタジー (ゴッペール)
 2. ソナチネ (サンカン)
 3. ヴォイス (武満徹)
 4. ピアノとフルートのためのソナタOp.23 (リーバーマン)
- 伴奏者: 辻 陽子

インタビュー



Q. 香川県出身の音楽家として、今後どのような活動をしていきたいですか?
 演奏の機会があれば、できるだけ参加したいです。室内楽やコンチェルトにも挑戦したいです。弾きたい曲がいっぱいあるので、もっと勉強して『この人の演奏をもう一度聴きたい!』と思ってもらえるような演奏家になりたいです。

Q. デビューリサイタルに応募したきっかけは?
 高校時代からお世話になっている先生に受けてみたらどうですかと言われたので、応募しました。

Q. 選考を通過して出演が決まった時の感想は?
 出演が決まった時は本当に嬉しかったです。

Q. ピアノの魅力はなんですか?
 ピアノは他の楽器とは違って和音が多様に出せるので、さまざまな音色の変化を楽しめます。特に、クラシックやジャズの繊細でなめらかな響きが私には魅力です。

Q. 今回のリサイタルを、誰が一番観てほしいですか?
 観てほしいのは、お世話になった先生方と、支えてくださった人々、姉とそして母です。

インタビュー



Q. 香川県出身の音楽家として、今後どのような活動をしていきたいですか?
 香川県出身の音楽家としてですか…難しいですね(笑) 香川県は、フルートの活動が凄く盛んだと思います。たくさん良い先生がいて、若手のプレーヤーがどんどん出てきています。私は、香川県の香川さんと言うだけで印象に残るらしいので(笑)、香川県の名前に恥じないよう、演奏を聴いてくれたお客様が、お腹いっぱいになって帰ってくれる、そんな演奏会を作り上げていきたいと思っています。

Q. デビューリサイタルに応募したきっかけは?
 いま、大学の寮に住んでいるのですが、後輩と2人部屋で、その子は先生から要項を買ったようなのですが、出ないと言うのでもらいました(笑)。初め、デビューリサイタルのことを知らなくて、こんな面白いことしてるんだ! 楽しそう! と思い応募しました。

Q. 選考を通過して出演が決まった時の感想は?
 全く通るとか思ってなかったので、本当にびっくりしました!! 2次審査は、無伴奏の現代曲をしたのですが、審査が終わった後、ああ、もっとロマン派辺りの曲にすれば良かったかなあ…って、思っていました(笑)

Q. 最も影響を受けた人は誰ですか?
 イタリア人フルート奏者のアンドレア・オリヴァさんです。高1の時のフルートコンヴェンションで、オリヴァさんのフルートを聴いて、生まれて初めて身震いしました。今まで聴いたことのない、キラキラとした音色で、真面目なんだけど、どこか悪戯っ子な面もみせる、凄く才能溢れる演奏でした。その日から今日まで、6年くらいずっと片想っています(笑)

Q. 今回のリサイタルを、誰が一番観てほしいですか?
 今までお世話になった恩師、音楽関係の方々や友達に観てもらいたいのですが、やはり一番となると、両親ですね。本当に、昔から苦労や迷惑をかけたばなしで…今までの感謝も込めて演奏したいです。

2013年春、デビュー 2年目を迎えた「サンポートホール高松デビューリサイタル」。今回は4名の音楽家が、ふるさと香川でリサイタルデビューを飾ります。一般公募から最終選考を経てリサイタルデビューを飾る4名は、真摯に音楽と向かい合い、県内外で演奏活動を続けています。一生に一度のデビューリサイタルの舞台で、応援してくださる皆さんへ心をこめて演奏します。このリサイタルを機に、音楽界で羽ばたいていく香川県出身の音楽家に大きなエールをお送りください。

上田花奈 松岡璃子

日 時: 2013年3月3日(日) 14:00開演(13:30開場)
 会 場: 第1小ホール
 チケット: 一般1,000円 学生(大学生以下)500円 **全席自由**
 発売日: 1月11日(金)



第1部
上田 花奈 (フルート)
 Ueda Kana
 香川県立坂出高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻卒業。同大学院を首席修了。第20回中部読売新人演奏会に出演。これまでにフルートを佐柄晴代、長山慶子、村田四郎、寺本義明の各氏に師事。室内楽を中川良平、菅原眸、村田四郎の各氏に師事。2007年秋より名古屋フィルハーモニー交響楽団首席奏者、富久田治彦を中心としたフルートカルテット「フルートデヴィルス」を結成し、オリジナル作品を中心とした本格的なアンサンブルを展開している。現在、各地のオーケストラに客演する他、ソロ、室内楽、スタジオ録音、後進の指導、あらゆる方面で活躍している。中部フィルハーモニー交響楽団団員、名古屋二期会オペラ管弦楽団団員。



第2部
松岡 璃子 (メゾソプラノ)
 Matsuoka Akiko
 高松市立高松第一高等学校音楽科卒業。東京音楽大学音楽学部声楽科声楽演奏家コースを経て、現在、東京音楽大学大学院オペラ科在籍中。香川の温もりを渴望しながらも、日々奮闘し研鑽を積む。第13回日本演奏家コンクール2位。第82回読売新聞社主催新人演奏会出演。第66回全日本学生音楽コンクール入賞。声楽を本田芽佳子、伊達英二、菅有美子、篠崎義昭の各氏に師事。

Program

1. フルートと通奏低音のためのソナタ 長調 Wq.133/H.564 (C.P.E.バッハ)
 2. クロウタドリ (メシアン)
 3. ソナタ「ウンディーネ」作品167 (ライネッケ)
- 伴奏者: 大堀 晴津子

インタビュー



Q. 香川県出身の音楽家として、今後どのような活動をしていきたいですか?
 香川県出身の優秀な音楽家が全国にたくさんいます。それぞれの地で勉強や活動した経験を地元香川県に持ち帰り、もっともっと音楽が盛んな県にしていきたいと思っています。そして「うどん県」と呼ばれる様に「音楽県」、「フルート県」と芸術の分野にも香川県が浸透していったら良いなと思います。今回のリサイタルを機に、地元で演奏する機会を増やしていきたいと思っています。

Q. 今回の演奏曲目を選んだ理由は何ですか?
 バロック、近現代、ロマン派と違う時代の作品でプログラムを組みました。その時代、時代の形式や演奏法が吹き分けられたら、より演奏を楽しんで頂けると嬉しいです。

Q. 初めて人前で演奏したのは、いつですか?
 ソロでは中学生の頃、フルートの発表会で「ロングロングアゴー変奏曲」を吹いたのを今でも鮮明に覚えています。最後のバリエーション(変奏)の速い部分では練習より速く吹けて、演奏していて楽しい!!と初めて思いました。今でもその感覚は忘れられません。

Q. 県外に出た時、香川と違ってカルチャーショックを受けたことはありますか?
 たくさんあります。例の一つあげるなら「先生」のイントネーションです。大学受験前に講習会に行きましたが、レッスンで「せん↑せえ!」と呼ぶと「せん↓せい↓です(笑)」と直されて、「あなたはフルートは練習しないで大丈夫だから先生のイントネーションを直さない!」と言われました(笑)。今でも帰省した時や、関西人と話した時に出てくる「先生」のイントネーションに懐かしさを感じます。

Q. 今回のリサイタルを、誰が一番観てほしいですか?
 やはり両親です。私が日頃仕事をしている場を観たり聴いたりする機会がほとんどないですし、実家では断片的に同じ場所を何度も繰り返したり、音を伸ばしたりしている練習しか聴こえて来ないと思うので、繋がった完成形を観て欲しいです。

Program

1. 日記帳 (小林秀雄)
 2. 曼珠沙華 (山田耕筈)
 3. ほほえみ (信長貴富)
 4. 戻り梅雨 (浅岡真木子)
 5. どこからいらしたの、愛する人よ (ホアキン・ロドリゴ)
 6. ラ・ミ・ソラ・ラウレオーラ (フェルナンド・オブラドロス)
 7. ちっちゃい花嫁さんに (フェルナンド・オブラドロス)
 8. 一番細い髪の毛で (フェルナンド・オブラドロス)
 9. 愛に夢中な女たち (ホアキン・ロドリゴ)
 10. あなたの黒い瞳 (マヌエル・デ・ファリャ)
- 伴奏者: 大嶋 千暁

インタビュー



Q. 香川県出身の音楽家として、今後どのような活動をしていきたいですか?
 これからも様々な音楽に出会い、共に色々な人に出会おうと思います。そんな出会いと喜びに満ちた音楽を色々な仲間達と奏で、香川と音楽を繋ぐ歌手として活動していきたいです。

Q. デビューリサイタルに応募したきっかけは?
 四国新聞を見ていた母からコンサート出演者を募集しているよと連絡が来まして、私は香川で演奏の機会があれば、できる限り参加したいと思っていたので、ソロリサイタルは初めてのことですが、勇気を持って挑戦しました。

Q. 今回の演奏曲目を選んだ理由は何ですか?
 自分の好きな曲、伴奏の大嶋千暁さんと共にやりたかった曲、私の性格に合った曲を盛り込みました。今年からスペイン歌曲を勉強し、素敵な曲に沢山出会えたのでその音楽に磨きを掛けて演奏をしたいです。

Q. 最も影響を受けた人は誰ですか?
 イタリアのメゾソプラノ歌手、チェチーリア・バルトリ。とても強くて、愉快な歌手。やることなすこと、格好いいです。自分らしい魅力を出すこと、音楽の魅力を引き出せること、素晴らしいことを学びます。

Q. 歌の魅力はなんですか?
 歌には、人の内に秘められた様々な感情や、可能性を呼び覚まし、より強く伸びやかにする力があると思います。歌のそういった無限の可能性に魅力を感じます。

青森県立青森中央高等学校

もしイタ

もし高校野球の女子マネージャーが
青森の「イタコ」を呼んだら

日時: 2013年2月11日(月・祝)
11:00開演(10:30開場)
会場: 第1小ホール
チケット: 学生券(高校生以下) 無料
一般券 500円 **全席自由**
発売日: 1月4日(金)

【作】畑澤 聖悟
【助成】独立行政法人日本万国博覧会記念機構

サンポートホール高松では、毎年夏に開催される「全国高等学校総合文化祭 演劇部門」で、表彰の栄光に輝いた学校を招聘し、高校生が創りあげる瑞々しい作品を紹介しています。

今回は、全国2,500校の中から見事“最優秀賞”を受賞した、青森県立青森中央高等学校を招聘します。高校演劇界で実力が知れ渡る強豪校の話題作は、一体どのようなものなのでしょう。顧問の畑澤先生にお話を伺います。

Q まずは“最優秀賞”受賞おめでとうございます。感想を聞かせてください。

— ほっとしました。昨年度の東北大会は特別な大会でした。13校中10校が東日本大震災を題材にしている、中には実際に被災した地域の高校もありました。拭いても拭いても涙の溢れる、ものすごい熱量の大会でした。そんな中でいただいた全国大会の切符。(東北の代表)という言葉の意味が例年とは全く違っていました。ものすごいプレッシャーがあったのです。

Q 極めてシンプルな舞台だということですが、作品の特徴を教えてください。

— 東日本大震災で、本校のある青森市は幸いにして大きな被害を免れました。生徒の中に被災した者はいません。昨年8月下旬、部員全員で話し合い、被災地の人たちのために何かやろう、と全員一致で決定しました。



2011年 青森県高校総合文化祭演劇部門 八戸市公民館ホール

被災地で公演をさせていただくためには、受け入れ先に少しの負担も掛けず、誰にでも楽しめ、シンプルで、笑えて、誰もがツッコミを入れられる荒唐無稽な物語を心掛けました。そして、執筆の段階から全ての演劇的舞台効果を排除して制作しました。すなわち、舞台上で一切の舞台装置・置き道具・小道具を用いず、照明・音響効果も必要ありません。つまり、体育館や集会所等ある程度の広さがあれば上演でき、仕込み等の時間を必要としないため、より被災地のニーズに合わせる事が可能になっています。

Q タイトルが話題の本と似ていますが、どうしてこのタイトルにされたのですか。

— よく知られた既成作品のフォーマットを拝借することによって、作品世界によりよく親しんでもらうための戦略です。深刻な社会問題を扱うことが多かった同校演劇部だけに、〈今回は明るく楽しくおバカなお芝居ですよ〉とアピールする狙いがありました。

Q 作品を作る過程で感じたことや、全国で巡回公演した時のエピソードを教えてください。

— 実施に当たって必要なのは資金の確保でした。まず初めに、青森市内の2つの公演で募金を呼び掛けましたが、不足分は学校に補助してもらいました。また、募金以外には、文部科学省の災害復興教育支援事業から助成を得るなどの努力をしました。



2012年 六郷市民センター(宮城県仙台市)

上演地は、八戸市、気仙沼市、大船渡市、釜石市、慈市、青森市、仙台市、利府町、宮古市の9ヶ所で、現地に着いたらまず清掃。かつて避難所だった会場もあり、気持ちを込め時間をかけて行いました。仮設住宅と隣接していた会場では、特に多くの来場者があり、大半は高齢者です。孫のような年頃の高校生が元気に駆け回る姿に大いに笑い、涙し、部員の手を握って会場を後にしました。9公演とも立ち見が出る盛況で、合計1,200名を超えました。

被災していない土地に住む人間が被災地に出向き、被災者を勇気づけるのは普通の覚悟ではできないことです。部員たちはバスの車窓から被災地の惨状を目の当たりにし、衝撃を受け、演じることへの覚悟を固めました。

Q 笑いあり涙ありということですが、作品のみどころを教えてください。

— 24人の高校生が舞台狭しと駆け回るこの作品は、全員が劇中歌を歌い、BGMを口三味線でハミングし、効果音も声で発します。物語の巧妙さや個々の技術ではなく、躍動する高校生の姿そのものをお見せすることにより、観客に元気を届けたいと考えています。

Q 最後にメッセージをお願いします。

— 現メンバーでの公演は今回が最後となります。一生懸命演じます。どうか足をお運びください。

12月15日、16日の2日間、俳優の柄本明さん・嶋田健太さんによる演劇ワークショップを行いました。

講師を囲み円形に座る30名の受講生たち。自己紹介をするうちに、さっそく何かに気付きます。いつの間にか、前の人と同じような姿勢で、誰に言われたわけでもないけれど、前の人と同じような語順に…。

円の中心に立つだけで、なぜこんなに緊張するの? 演じるってなんだろう? 他人から見られるってどんな気持ち? そんなことを話し合いながら、ワークショップはすすんでいきました。

後半では、グループごとに創作した舞台を演じてみることに。受講生が前に立ち、柄本さんがパンツ!と手を叩くところから、舞台が始まる。柄本さんの合図を、恥ずかしそうに待つ受講生たち。「この時間が、何かわからないけど良いんだよな」と笑顔の柄本さん。

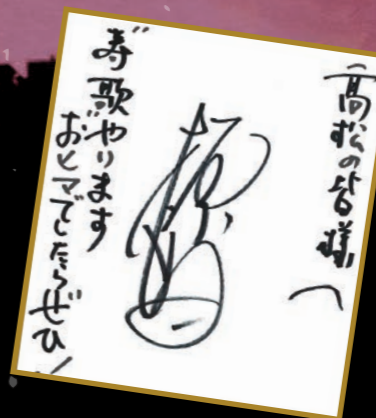
初めは不安そうだった受講生たちも、グループで話し合いながら実際に自分たちで演じることを通して、たくさんの違った答えを見つけたのではないのでしょうか。ワークショップの帰りには、「僕も柄本さんと一緒に、何かわからないけど、すごく楽しかった!」「勉強になりました。」との声も。

今春、柄本さん率いる劇団東京乾電池がサンポートホール高松で「寿歌」を上演します。1980年代、その後の小劇場演劇の方向性を決定づけた、北村想さんの傑作戯曲「寿歌」。演劇の公演を観たことのない人も、演劇が大好きな人も、きっと何かを感じられる舞台です。ぜひ、サンポートホール高松へお越しください。



近未来。核戦争後の全てが瓦礫となった世界。誰もいなくなった廃墟の世界を、旅芸人のゲサクとキョウコがリヤカーをひいて歩いてゆく。ヤスオという男が現れ、そして去る。世界では今でもミサイルが飛び続けている。リヤカーをひくふたりの上に雪が降り積もる

日時: 2013年3月9日(土) 19:00開演(18:30開場)
2013年3月10日(日) 14:00開演(13:30開場)
会場: 第1小ホール
チケット: 一般 4,800円 友の会 4,500円 **全席指定**
発売日: 友の会 1月4日(金) 一般 1月11日(金)
【作】北村 想
【演出】柄本 明
【出演】柄本 明、角替 和枝、西本 竜樹
【助成】財団法人地域創造



寿歌

Hogiuta

劇団東京乾電池公演